

調査目的・概要

江津市東部地域にある2つの公共施設(道の駅・都市公園)について、今後予定されている山陰道(福光ー浅利間)開通後の交通需要の変化に対し、民間企業の取組みを核に、各施設が連携した、持続可能なディスティネーション・エリアの創出を目指すため、民間施設と道の駅、菰沢公園を一体的な官民連携した運営体制を構築するための調査を実施することを目的とする。

調査内容・スケジュール

・先行事例に関する調査

道の駅や公園など類似機能を有する複合施設や市町村など小規模自治体の先行事例を調査し、整理する。

・官民対話の場の企画・運営

地域住民や域内事業者等が、将来にわたって東部地区を中心に交流すべく、またこの東部地域の拠点整備に、自主的・主体的にかかわりを持つ契機も創出すべく、地域住民や域内事業者を主な対象として官民連携に関して学ぶ場を設け、多様なあり方や期待される効果などを具体的な事例を含めて説明し、住民や事業者の理解を深める場の企画・運営を行う。また、施設整備や運営への関与について参加意欲や可能性を把握・整理する。

・持続可能な施設整備・維持管理運営の検討

官民対話の場を経て、域内で担うことができる事業の範囲の把握・整理を行う。その上で、地域内で不足する知見や技術、担い手について、域外の事業者等から意見や提案の聴取を行う。また、実現可能性の高い一体的な官民連携の手法を整理した上で、各施設の機能や規模、配置等を検討し、令和8年度以降の事業方式・事業形態・事業期間や法制度上の課題、官民のリスク分担等について検討する。

・交流を創出する機能等の検討

多様な人々が集うために求められる機能や空間について検討し、本事業において実施が期待される民間収益事業について整理する。

・資金調達に関する検討

施設整備に活用可能な交付金・補助金を調査するとともに、整備・運営について民間からの資金調達手法についても検討し、令和8年度以降の計画の素案を作成する。

調査スケジュール(例)

調査内容	6月	8月	10月	12月	2月
地域ブランディング戦略会議にて協議、事業等整理	■				
官民対話の場の設定		■			
整備・管理運営の検討			■		
導入可能性評価等				■	
調査評価・まとめ					■

事業・施設の概要

【道の駅・菺沢公園を拠点とした東部地域のブランディング事業】

・市内の中でも人口減少が著しい市内東部地域(浅利町、後地町、黒松町、波積町の4地域)の活性化を図るため、域内にある2つの公共施設(菺沢公園および道の駅)のハードおよびソフト両面の魅力を相乗的に高めるもの。令和6年度には、道の駅に隣接する民間誘客施設がリニューアルされた。また、山陰高速道路開通後の交通需要の変化に対し、民間企業の取組みを核とした、観光事業の創出及び地域内経済循環のため、各施設が連携し、持続可能なエリアの創出を目指すため、PPP手法を活用し、民間施設と道の駅、菺沢公園の一体的な官民連携した運営体制を構築する。今後予定されている山陰道(福光-浅利間)が開通すると、既存の交通需要の変化が発生する。それにより、現在の主要道路に隣接する道の駅や菺沢公園などの利用者は約8割減少する見込みであり、そのような事業環境を踏まえた新しい官民連携したスキームを検討する。

①菺沢公園

敷地面積は32ha(東京ドーム7個分)。敷地内には7.2haの池を有する。公園内には、オートキャンプ場が併設されており、年間約4,000人の集客があるが、冬季は閉場。2024年度からは子供用遊具のリニューアルのための拡張工事を実施している。

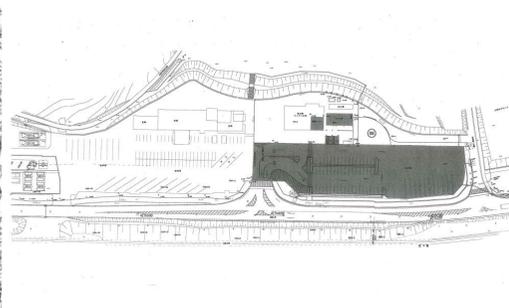
②道の駅「サンピコごうつ」

市内唯一の道の駅であり、市とJAが出資して設立した第3セクターが指定管理者として運営している。地域の生活利便施設兼農林水産直売所としての役割を果たしている。

▼菺沢公園



▼道の駅「サンピコごうつ」



事業・施設の課題

- ①道の駅「サンピコごうつ」 道の駅は、地域住民のコミュニティ、地元農家の農産物の販路として重要な役割を担っている。令和6年度に、地域内唯一のスーパーが廃業したことにより、地域住民の買い物拠点としての機能強化は必須である。また、令和5年度には最高収益を記録したが、今後予定されている山陰道(福光-浅利間)の開通により、施設前を通る国道9号の通行量は約8割減少する旨の調査結果が出ている。従来の集客ルートが変化し、来客数が大幅に減少すると予想されているため、売上の低下や、経営悪化、地域内外の交流拠点としての機能の低下が懸念される。
- ②菺沢公園 地域の子育て世代のレクリエーション施設や域内外の人々の交流拠点や関係人口の創出拠点として整備された施設である。近年、利用者数が激減しており、交流拠点としての機能が低下している。周辺地域の魅力的なレジャー施設の増加や、公園を拠点とした継続的な交流や地域活動が不足していることが原因として考えられる。また、山陰道開通の影響で、人の流れが変化し、公園へのアクセス性や認知度が低下する可能性が懸念される。

検討経緯／事業化スケジュール

【検討経緯】令和5年度より、シティプロモーション事業の一環で菺沢公園のリブランディングプロジェクト事業を実施。メディアの持つ仲介機能・発信力と連携。多様な企業や人材との接点を創出し、外からの目線やその専門的な知見により、江津市の様々な取り組みが深化している(令和6年度の内閣府「企業版ふるさと納税に係る大臣表彰」受賞)。

- ・令和6年度には、複数の部署からなる「江津地域ブランディング戦略会議体」を設置。庁内で横断的に実施すべき事業について、協議・合意形成を継続的に実施しており、本事業は、この会議体を中心となる。
- ・令和7年度に道の駅に隣接する民間運営施設がリニューアルを行うため、民間事業者の取組みを軸とし、既存の運営形態の見直しを図る。
- ・民間企業の取組みを契機として、本地域を域外の人や企業、住民同士の交流等の新たな人流を創るための交流拠点・観光拠点としての整備を行い、民間主導による継続的な地域活性化を推進する。

【事業化スケジュール】 令和7年7月 本調査実施／令和8年3月 実施方針の策定／令和8年度中 実施設計、事業者選定／令和9年度中 事業開始